

「ソト」からおおあらい

Vol.61



大洗高校マーチングバンド部
『BLUE-HAWKS』 監督

有 國 淨 光

略歴…山口県立防府高校、武蔵野音楽大学を経て昭和50年に大洗高校着任。以後51年に亘って同校吹奏楽部・マーチングバンド部の指導にあたり全国大会の常連校に育てる。平成21年茨城県教育委員会よりMT(マイスターオブティーチャー)の表彰・同30年文科省より優秀教員表彰・令和元年文化庁長官表彰を受ける。

昭和50年3月26日、大学の田盛先輩(後の磯浜小マーチングバンド設立者)から『大洗高校で音楽の講師を探してる。新設の高校は大変と何人も辞退したらしい。急だけど明日来れる?断ってもいいよ』との電話がありました。先輩は神様、友達にスーツを借りて常磐線に初めて乗りました。結果、『君が最後の砦』『吹奏楽部の設立を』との説得に負けて1年契約、気がつくとも半世紀が過ぎました。

長男以外は外に出ざるを得ない長州に比べ、豊かで保守的な水戸は外国でした。大貫小前の田崎先生宅(元明治記念館)に下宿後、豊後屋さんの近くにアパートを借りました。磯菊さんの車庫を出る時にイルカが並んでいたのには驚きました。大洗に新しい郷土芸能をとの依頼を受け、商工会の青年部を中心に大洗荒磯太鼓を設立、高校の音楽室で深夜まで練習しました。町役場前の海水浴場で開催された盆踊りで大太鼓を打ったことも忘れられません。埋め立て工事とフェリー就航、水族館の改修、文化センターの開館、豊かな海づくり全国大会、

大洗鹿島線の開通等(順不同)、大きな事業にも立ち会えた50年でした。

東日本大震災の際は帰宅できない県外からの寮生と音楽室で4泊しました。プールの水をトイレに運びながらの生活で食料の手配は大変でした。井戸水で作ったカレーを届けて頂いたこと、母ハウスを開放頂いたこと、コンビニの生鮮食品を無料で提供頂いたこと等々、皆様からのご支援は忘れられません。

加藤町長(当時)に『県立高校誘致は町民の悲願、用地は町で用意した』と聞かされましたが、全国募集に伴う宿舍の確保や後援会の運営、50周年事業等を物心両面で支えて頂いたのは町民の皆様と卒業生でした。紙面を借りて心からお礼申し上げます。

本校も平成初期760人だった全校生徒が160人に減少しました。大洗町の人口も50年前28,000人弱だったと記憶しています。少子化・過疎化の中でいかにして賑わいを取り戻すか・・私達は『地域に愛されるマーチングバンド』を目標に学校の生き残りをかけて頑張りたいと思います。どうか大洗高校と『BLUE-HAWKS』

に変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

『故郷は遠きにありて想うもの』と申しますが大洗が第二の故郷になりました。50年間大洗高校で働けたこと、多くの卒業生と巡り会えたことに心から感謝します。



9月27日(土) にっぽん丸(7Fデッキ)にて

「ソト」から見たおおあらいでは、各界でご活躍の方々から大洗についてのご寄稿をいただきます。